

(仮訳)

プレスリリース

MV-22の日本配備

2012年6月29日

1. 米国は、日本政府と緊密に調整しながら、MV-22の日本配備を進めてきた。米国防省は6月29日、東京において、CH-46ヘリをMV-22オスプレイに換装するという通報を日本政府に対して行った。
2. 米国政府は、事故調査が継続中であるものの、日本政府からの要請に基づき、MV-22及びCV-22の最近の事故に関する事実及び初期調査結果を提供してきた。
3. 4月11日のMV-22の事故に関しては、フライトデータ情報は、機体はMV-22海軍訓練運用手続標準マニュアルに想定され、記述されているとおりに機能していたことを示している。機体に機械的または資材上の不具合はなく、機体の安全性に何ら問題はなかったと断定されている。
4. 6月13日のCV-22の事故に関しては、事故の初期調査ではCV-22の継続的運用を妨げるいかなる情報も発見されておらず、米空軍の上級指揮官達を含め米国防省としては、CV-22の信頼性を支持し、その運用が安全であると確信している。
5. これらの初期的な結論に基づき、日本政府と緊密に調整しながら、米国政府はMV-22の輸送を進めることを決定した。機体は、7月下旬に陸揚げのため岩国飛行場に到着する予定である。
6. 当該機の安全性に関して日本政府が有する懸念に鑑み、米国政府は、調査結果が日本政府に提供され、飛行運用の安全性が再確認されるまでの間、日本におけるいかなるMV-22の飛行運用も控えることとする。この調査結果は、8月に提供される見込みである。
7. この間、世界中において米国がMV-22の運用を見合わせるのとは日本においてのみとなる。米国は、米国本土を含む全世界でMV-22及びCV-22の運用を継続する。
8. MV-22は優れた安全記録を有しており、その飛行時間は115,000時間を超えている。その総飛行時間の3分の1は過去2年間に飛行されたものである。オスプレイは、戦闘運用、人道支援、訓練及び試験評価任務を遂行する中でこの飛行時間を達成した。